

いふ所の神子神職を頼て亡者の菩提を
祈。是をみさせたまふ——といふ神壇をうぬ
へ幣帛湯餽を備り注連縄を引き幣の垂紙
は鳥の形を切。神子を幣をうぬ熱湯に
浴し横死せしむ——財のく——こゝろは
墮して苦——こをうぬ。おと預れむ古俗を
を亡者の靈魂神子の心——繋繋りて寤す
ふなりと威を社家神子の祠は懸——て今
日新い所の功德はよりて菩提はありぬ
と中横死せしむその、妻子をうぬは并て

哭泣せしむ事——事終れむ社家も死者へ
靈骨を送る。何の命と稱しあは 神を是を更て
亡者仏果を得しむと執るみさせしむ馬の
車とをその法を——菩提を救ふの教なり
を年淳圖の流を見聞神職の業はあ
らむと機。俗家は是に勵して今け事と頼
むもの稀なり社家も暗を破しもの出
来て切。この法は信心ありし事なり予
竊は案するに若世山といふありし
ありし大師の事とせば山は後——